



1月

パストラル尼崎

元旦

No.151, 2024 (R6) 年12月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel. 06-6493-0521

Fax. 06-6493-0301

発行責任者：竹田 恵之

◆十二月の歳時記◆

お正月の風物詩、『箱根駅伝』

毎年、お正月に放映される箱根駅伝は、いまや日本の風物詩になりましたね。学生たちが必死に襷をつないでいく姿は、競技に興味のない方にも感動を与えてくれます。

さて、その箱根駅伝ですが、第1回大会に参加したのはわずか四校。その後、徐々に参加校を増やしながらか、関東大震災、太平洋戦争、そしてコロナ禍などを乗り越え、大正から令和へと学生ランナーたちが襷をつないできました。

箱根駅伝は1987年にテレビが生中継を始めた事で、日本全国に知られるようになりましたが、その中継の合間に放送されてきた名物コーナーが「箱根駅伝今昔物語」です。一昨年、それらをまとめ出版された本には、第1回大会の時に召集令状を胸に走った学生の話や、ゴール150m手前で棄権した選手、違う大学に通うも同じ区間で競った双子、新興チームのアンカーをつとめた人気漫画家、「山の神」今井正人など、記憶に残るランナーたちや、名物監督、レースを先導する白バイ隊員など様々な人物が「箱根」を語っています。

また、駅伝を間近に見てきた地元旅館に伝わる話も興味深いのです。現在、選手たちは、白バイの先導とテレビの中継車とともに賑々しく沿道を駆け抜けて行きますが、第1回大会当時、飛脚さえも苦労した険しい凸凹砂利道の山道を先導したのは、なんと「自分の庭」のように遊んでいた小田原中学の子ども達。汗 けれどそれも途中の芦之湯まで、あとは自力でゴールを目指すという想像を絶する過酷な駅伝大会だったのだとか。

大会は2月14日、お昼の1時にスタートし、極寒に耐えながら夜の8〜9時頃にゴールしていたようです。そこには箱根の青年団有志たちのサポートがありました。分かれ道のある所、迷いやすい所には、大きな焚火を燃やして待機。選手の到着を松明を振って迎え、また、猟銃を撃って仲間へ選手通過の合図を送って連絡し合いました。1位の選手は20時30分のゴール、しかし慶応義塾大学の選手（山岳部）が遭難、消息不明となります。マイナス10度以下にもなる夜の箱根、木にしがみつき泣きじゃくる選手を青年団が発見、救助により再度コースに戻ることができ、21時53分に無事ゴールしたそうです。選手を守ろうとする地元民の協力や、山の男たちの熱い心に感動しますね。今年で101回目の「箱根駅伝」ですが、今年も、どんなドラマが繰り広げられるのでしょうか？



感動の『関大空手道部』

昨年11月、文化祭月間の最終企画『関大空手道部』の演武などが“ダイニング道場”で披露されました。当初、ポスターで告知するも、いつもノリのいい皆様の反応はイマイチ（泣）・・・無理な依頼を困惑しつつも承諾して下さり、プログラムまで練って下さった関大空手道部のM先生や8人の学生の皆様に何と言えは？・・・と焦るも、意を決してフロント陣を巻き込み『何とかお願い作戦』をロビーで決行！「じゃあ行っただげるわ！」という優しい方々が続々参加を表明！そしていよいよ当日を迎えました。若き空手道部の学生の熱い号令と一緒に準備体操に始まり、迫力ある組手（試合形式）の見学、そしてご入居者たちも「突き」を体験。その腰の入り方もなかなかのもの。そしていよいよ「演武」の見学。静かな礼から空を切る胴着の「バシッバシッ」という音と動きに合わせ「シュッシュュッ」という息の音。魂の演技ともいえる「演武」に息を殺し見入る皆様。全国3位になった女子形の一糸乱れぬ3人の演武にもおおいに感動！演技後、及び腰だったはずの皆様が部員の胴着に触れたり腕に触れたり大興奮！「よかったわ〜！」との賛辞をたくさんの方々から頂く事ができました。ホッ！

令和6年度

パストラルシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されていた皆さま。今年度も是非ご参加下さい。

*** 毎回フロントにお申込み下さい(席に限りがあります)**

*** 当日は、学生証も忘れずに！**

第8回

新制度も学ぼう！

「相続、贈与、後見人制度」

・日時：1月31日(金) 14時

司法書士

池田 悦子 氏



権利意識の高まりとともに相続をめぐるトラブルも増加！我が子同士の相続が争続にならないよう、また安心に暮らすために後見人制度の事もしっかり学んでおきましょう！